

小・中学校家庭科の被服領域における実験方法の検討(Ⅲ)

- 洗たく学習に関連する②, ③の方法 -

愛知教育大 日下部信幸

目的. 小学校家庭科および中学校技術・家庭科の被服領域では、洗たく学習が多くとり入れられているが、その内容はおもに洗たくの方法に関するものである。実験的なものとしては汚れた布の吸水性、洗剤の働き、毛製品の縮充性などがある。ここでは、洗たくの必要性、布と洗剤の関係など洗たくに関連する実験方法を検討した。

方法と結果. 何故洗たくが必要であるかという点に対し、汚れた布は汗を吸いにくくなることとあざ知られているが、汚れた布はカビの発生が早く、カビが発生すると汚れが落ちにくくなることも理由となる。100%RHのデシケータ中で、汚れた布は数日でカビを発生させる。毛製品は中性洗剤が適する実験として、NaOH液による方法があるが、アルカリ度が著しく異なる点に問題がある。毛製品をせっけん、弱アルカリ性洗剤、中性洗剤に浸してその変色性を観察させる方法が理解されやすいと思われる。

以上、(Ⅰ)～(Ⅲ)の実験方法を検討するにあたり、とくにつぎの5点に留意した。

- ①. その実験が児童・生徒に何故かという疑問をもたせ考えさせるものであること。
- ②. 特別の設備や備品を必要としないこと。
- ③. その実験が科学的で再現性のあること。
- ④. 実験操作に熟練を要し長時間がかからないこと。
- ⑤. 安全な方法であること。

家庭科における実験や観察は生活現象をとらえているため常識的な面が多い。しかし、常識を科学的にとらえ検証することが実践的態度を身につけさせる一方法であると思う。

付記. 本報は昭和55年度愛知教育大学家政学教員卒業研究(松浦里美小中学校家庭科の洗たく実験についての検討)をもとにまとめた。